

# 織姫塚

大洗町

大洗の酒沼川のほとり(那珂川との合流点近く)にある「織姫塚」のお話です。

むかし、この辺りの大岩の下は深い淵になっていて、入ると妖怪に絡め取られ、これまでに淵に入って助かった人はいないと言われておりました。また、水底には、機を織る姫が住み、風の日に水面に耳をあてると機を織る音が聞こえるという噂がありました。

ある日、噂を聞きつけた徳川光圀公が妖怪退治のため水底の姫を訪ねようと川に飛び込みました。どんどん泳ぎを進めていくと百尋ワカメが巻きついて来て、九穴アワビが吸い付いてこようとします。光圀公は懸命にワカメを切りほどき、九穴アワビを投げうって進むと、水底に立派な家が見えてきました。



家からは確かに機織りの音が聞こえ、光圀公が水底の大きな門の扉を叩くと、美しい姫が出てきました。

光圀公が妖怪退治にきたと理由を話すと、姫ははらはらと涙を流しながら「貴方のような高貴な方が来る所ではありません。本来なら、命のないところなのですが、早々に立ち去りなさい」と言い、追い返されてしまい、光圀公はやむなく、そのまま帰ってきました。岸で待っていた家臣たちは大喜びしました。光圀公は水底であったことを家臣たちへ話し、この大岩の近くへ立ち寄ることを禁じました。

その後、光圀は、水底の姫をたいそうあわれんで、川岸に立つている大岩を織姫塚と名づけたということです。

〈参考文献〉茨城の伝説(茨城新聞社編)

※1 尋(ひら)……日本の古い慣習的な単位。両手を左右へ広げた時の、指先から指先までの長さ。長さは一定しないが5尺(約一メートル)ないし6尺(約一メートル)くらい。布・縄・釣糸の長さまた海の水深などを表現するのに用いられる。

※2 九穴アワビ……鮑貝の殻に穴の九つあるもの。

※掲載事項には諸説あります。

現在は、織姫塚らしい岩は見当たりません。また、お話のように水面に耳をあてて機織りの音を聞く事はできません。



「運ぶ」を支え、地域社会を笑顔にする

**ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社**

本社 / 〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(大代) <https://www.ibaraki-isuzu.co.jp>